

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

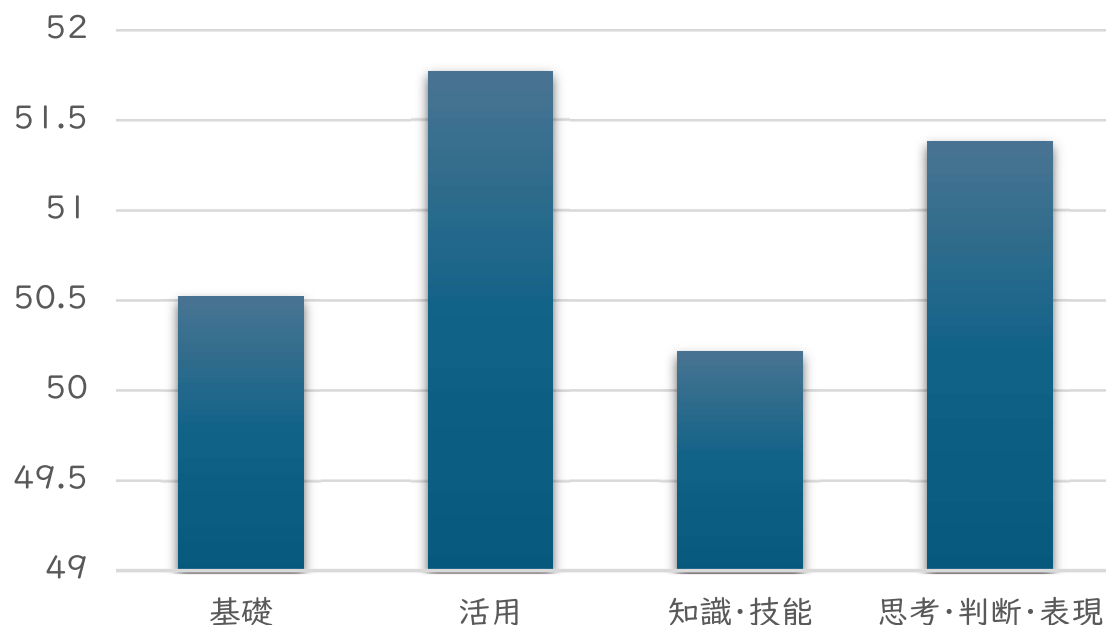
<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立三木小学校

国語に関する本校の傾向と対策

目標値を50としたときの本校平均正答率の割合



全体

基礎的な知識・技能はおおむね定着しており、全国平均を上回る領域・内容も多く見られた。しかし、「漢字を書く」の内容に課題が見られる。また、「活用」や「思考・判断・表現」の正答率もおおむね良好であるが、「書くこと」に関して課題が見られる。今後は、自分の思ったことや考えたことを理由をつけて書く機会を増やしたり、伝えたい内容の中から、中心に述べたいことを一つに絞って、事柄の順序を考えて書くなど文章の構成を意識して書くことを指導したりしていく。そして、文章を書く時には、学習した漢字を使うよう意識させ、日常的に書くことで漢字の定着につなげていく。

第2学年

2年国語の基礎では、目標値81に対して、本校は82.1と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値56.3に対して、本校は59.1と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「読むこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「書くこと」や「情報の扱い方に関する事項」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「ものがたりをよみとる」や「かん字をかく」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「きいたことをもとにはなしをする」や「文しょうをかく」が目標値を下回る結果となった。今後の改善策として、授業の中で話を聞くときには最後まで聞く習慣を日々に掛けていくことで、聞いたことから逸れてしまわないようにしていく。また、単元の学習の最後に振り返りをする際には、自分の言葉で学習を振り返るようにし、言葉を用いる機会を増やしていく。

第3学年

3年国語の基礎では、目標値79に対して、本校は80.8と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値56.9に対して、本校は53.8と、相対的に課題があることが分かる。領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「読むこと」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「かん字を書く」や「ものがたりを読みとる」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「文しょうを書く」や「話を聞きとる」が目標値を下回る結果となった。大事なことを落とさず聞く習慣を増やしていく。特に大事なものに関しては、視覚的支援を行う。「書くこと」に関しては、自分の考えを書く機会を増やす。

第4学年

4年国語の基礎では、目標値74.1に対して、本校は66.6と、相対的に課題があることが分かる。活用では、目標値58.75に対して、本校は60.9と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「言葉の学習」や「話し合いの内ようを聞き取る」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「漢字を書く」や「文章を書く」が目標値を下回る結果となった。文章を読み、考えたことや大事だと思ったことを自分の言葉で書く機会を増やしていく。また、既習の漢字を日常的に使うことを意識させることで、漢字の定着を図る。

第5学年

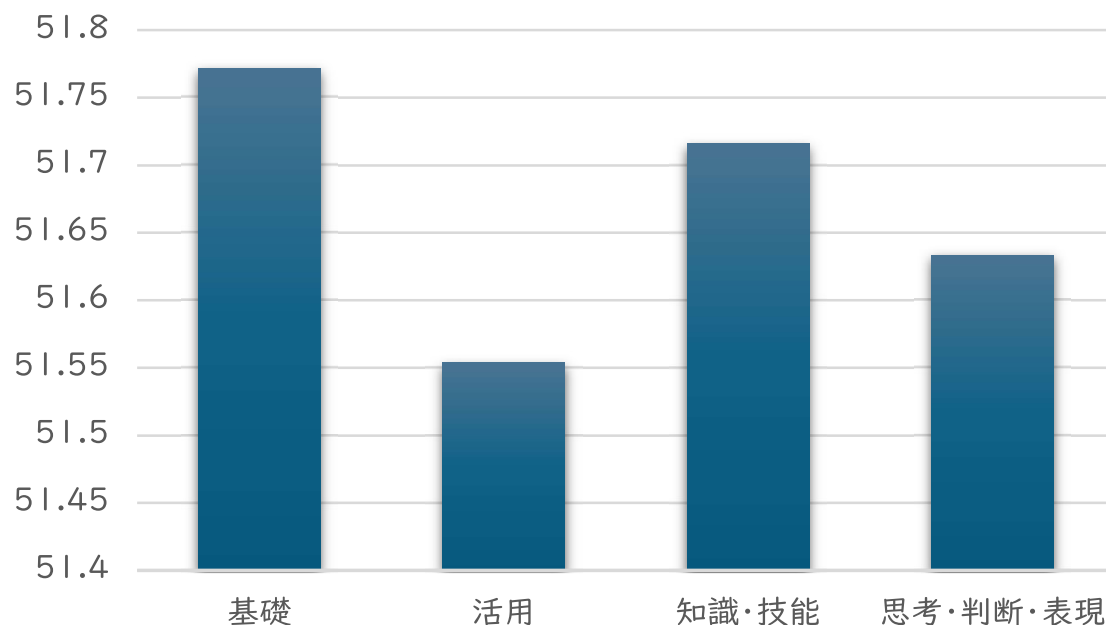
5年国語の基礎では、目標値69.4に対して、本校は74.5と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値55.6に対して、本校は60.5と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「読むこと」や「我が国の言語文化に関する事項」が目標値を超える良い結果だった。問題の内容別に見ると、「物語の内ようを読み取る」や「インタビューをする」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「漢字を書く」が目標値を下回る結果となった。今後は、学習した漢字を日常的に書く機会を増やしたり、漢字小テストを定期的の実施したりするなどして、漢字を書くことが児童に定着するようにしていく。

第6学年

6年国語の基礎では、目標値66.1に対して、本校は69.5と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値50に対して、本校は53.0と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「書くこと」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「説明文の内容を読み取る」や「レポートを書く」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「文章を書く」や「漢字を書く」が目標値を下回る結果となった。今後は、基本的な文章の構成について改めて指導し、150字程度の作文を書く課題を増やす。また、漢字の定着については、10問程度の小テストを繰り返し行うことで定着を図る。

社会に関する本校の傾向と対策

目標値を50としたときの本校平均正答率の割合



全体

基礎的な知識・技能はおおむね定着しているが、図や表、グラフを読み取ったり、複数の資料を比較・分類したり総合したりすることに課題がある。資料の読み取りについては、読み取るポイントを押さえるだけでなく、他教科でも資料を読み取る機会を増やしていく。学年終了時まで社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、文章や図などにまとめたりする機会を増やす。それを基に、自分の考えを資料を用いて説明したり、根拠や理由を明らかにして議論したりすることができるよう機会を設ける。

第3学年

第4学年

4年社会の基礎では、目標値70に対して、本校は69.0と、相対的に課題があることが分かる。活用では、目標値48.6に対して、本校は48.1と、相対的に課題があることが分かる。領域別に見ると、「生産や販売」や「地域や市の様子」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「安全を守る働き」や「市の様子の移り変わり」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「店ではたらく人」や「工場の仕事」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「買い物調べ」や「安全なくらしー火事」が目標値を下回る結果となった。今後は、資料を丁寧に読み取ったり、複数の資料を活用して分かったことを文章や図などにまとめたりする機会を増やす。

第5学年

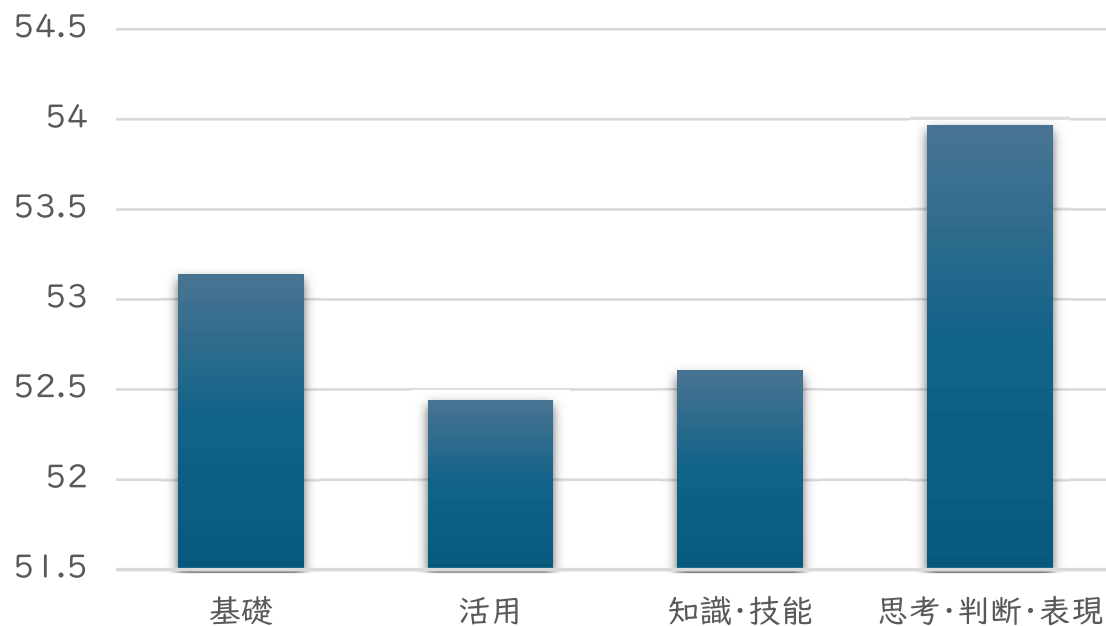
5年社会の基礎では、目標値68.1に対して、本校は70.6と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値55.7に対して、本校は56.7と、相対的に良好であることが分かる。問題の内容別に見ると、「先人の働き」や「特色ある地域の様子」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「ごみのしよりと利用」が目標値を下回る結果となった。今後は、各単元終了時まで、様々な資料から読み取ったことを文章で表現したり、学習の振り返りを文章にまとめたりする活動を通して、情報を活用して考える力を高めていく。

第6学年

6年社会の基礎では、目標値67.6に対して、本校は73.3と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値62.8に対して、本校は67.4と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「国土の自然などの様子」や「農業や水産業」が目標値を超える良い結果だったが目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「自動車をつくる工業」や「日本の国土と人々のくらし」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「日本の水産業」や「日本の工業生産」が目標値を下回る結果となった。今後は、児童の問いから学習をはじめ、消費者や未来の社会の担い手としての視点に立って考えることで、単なる暗記ではなく、自ら考える力を身につけられるようにする。

算数に関する本校の傾向と対策

目標値を50としたときの本校平均正答率の割合



全体

基礎的な知識・技能はおおむね定着しており、全国平均を上回る領域・内容も多く見られた。一方で、高学年になるにつれて「活用」や「思考・判断・表現」の正答率が低下し、図形・割合・変化と関係など、複数の情報を関連付けて考える内容に課題が見られる。今後は、児童が条件を整理し、自分の考えを説明し合う学習活動を一層充実させるとともに、活用問題を日常的に扱い、数学的な見方・考え方を働かせる授業改善を推進していくことが重要である。

第2学年

2年算数の基礎では、目標値79.6に対して、本校は84.3と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値65.7に対して、本校は71.1と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「データの活用」や「測定」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「図形」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「たしざん」や「えをつかったグラフ」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「かたち」や「120までのかず」が目標値を下回る結果となった。今後の改善策として、授業の中で具体物やICT機器を用いることで図形や数などの概念的なものを身近なものとして考えられるようにしていく。また、基礎的な力は身に付いているので、その力を身近な事象に活用していけるような場づくりを授業の中で心がけていく。

第3学年

3年算数の基礎では、目標値78.0に対して、本校は78.3と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値63.3に対して、本校は63.5と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「データの活用」や「測定」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「数と計算」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「ひょうやグラフ」や「長さ・かさ」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「たし算・ひき算」や「10000までの数・分数」が目標値を下回る結果となった。四則計算の基礎が定着できるよう練習の機会を設ける。文章問題から、必要な条件を読みとる学習を充実させる。

第4学年

4年算数の基礎では、目標値75に対して、本校は78.1と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値61.4に対して、本校は59.9と、相対的に課題があることが分かる。領域別に見ると、「データの活用」や「数と計算」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「図形」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「表とぼうグラフ」や「□を使った式」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「円と球・三角形」や「たし算・ひき算」が目標値を下回る結果となった。今後は、操作活動・体験活動を充実させ、具体物やICT教材を活用し、具体的な場面を想像できるような活動を増やしていく。

第5学年

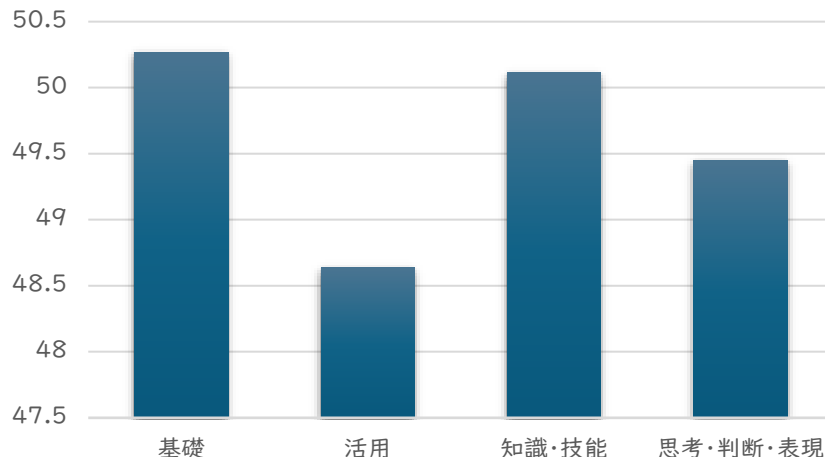
5年算数の基礎では、目標値64.5に対して、本校は69.8と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値57.5に対して、本校は61.0と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「数と計算」や「変化と関係」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「図形」や「データの活用」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「わり算・計算のきまり」や「分数」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「いろいろな形」や「面積」が目標値を下回る結果となった。今後は、児童が自分たちで答えを導きだしたり、ペアやグループで自分の考えを伝えたりする活動を通して、活用する力や思考・判断・表現力を高められるようにしていく。

第6学年

6年算数の基礎では、目標値67.3に対して、本校は77.0と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値53.8に対して、本校は60.9と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「変化と関係」や「数と計算」が目標値を超える良い結果だった。問題の内容別に見ると、「割合」や「立体と体積」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「正多角形と円・合同」が目標値を下回る結果となった。今後は、自分の考えを説明し合う学習活動を一層充実させ、数学的な見方・考え方を働かせる授業改善を推進していく。

理科に関する本校の傾向と対策

目標値を50としたときの本校平均正答率の割合



全体

4年では、基礎的な知識・技能及び活用においても目標値に対して下回った。5年では、基礎的な知識・技能では目標値に対して上回り、相対的に良好であった。一方、活用では、目標値を下回り、課題がある。6年では、基礎的な知識・技能及び活用において、目標値を上回り、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、4年・5年ともに、「物質・エネルギー」が目標値を下回った。「知識・技能」「思考・判断・表現」などの観点別正答率では、4年は目標値を下回り、5年・6年は上回った。しかし、全国平均と比較すると、4・5・6年全て下回っている。今後は、教師が基礎基本的な学習指導をより意識し、「知識・技能」を改善していく。また、児童一人一人が主体的に実験をする機会を設け、「知識・技能」を活用して、説明し合う交流活動を活発にすることを通して、「思考・判断・表現」の向上を目指す。

第3学年

第4学年

4年理科の基礎では、目標値64.5に対して、本校は62.1と、相対的に課題があることが分かる。活用では、目標値53.8に対して、本校は51.9と、相対的に課題があることが分かる。領域別に見ると、「生命・地球」や「物質・エネルギー」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「音のせいしつ」や「こん虫の育ち方」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「風やゴムのはたらき」や「植物の育ち方」が目標値を下回る結果となった。今後は体験したことを友達に説明したり、まとめたりすることで、知識の定着をはかる。

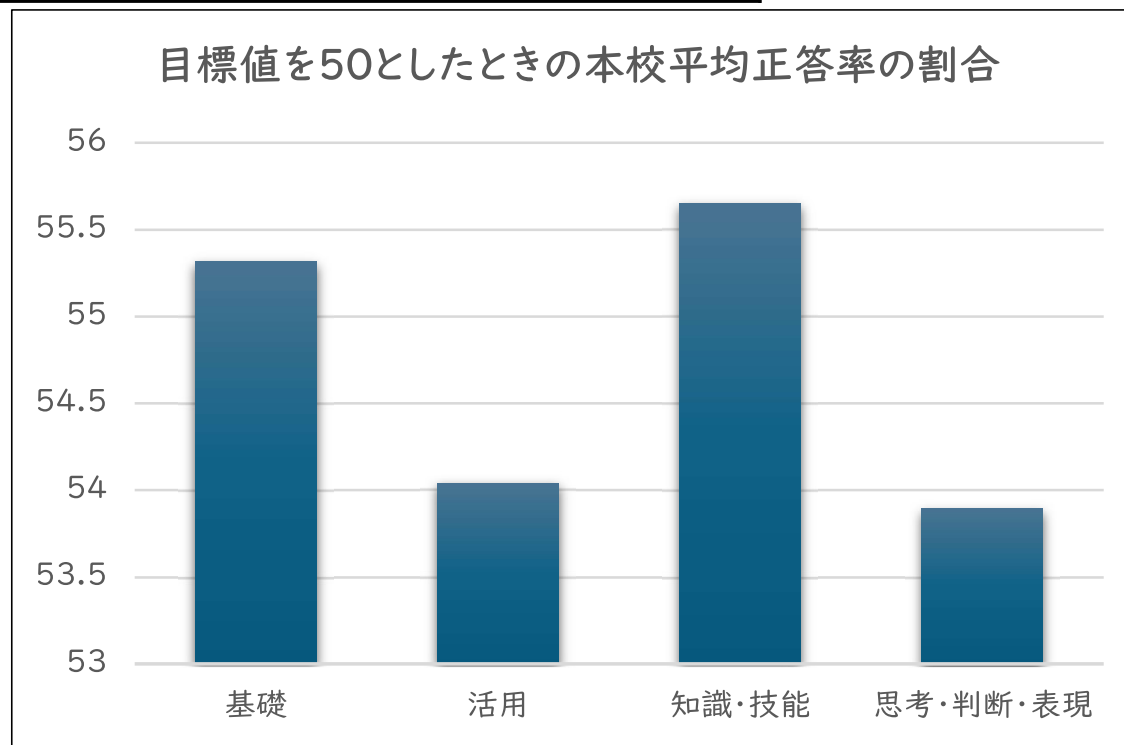
第5学年

5年理科の基礎では、目標値65.5に対して、本校は68.2と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値41.1に対して、本校は38.2と、相対的に課題があることが分かる。領域別に見ると、「生命・地球」目標値を超える良い結果だったのに対し、「物質・エネルギー」が目標値を下回る結果となった。問題の内容別に見ると、「1年間の植物の成長」や「動物のからだのつくりと運動」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「自然の中の水」や「物の体積と温度」が目標値を下回る結果となった。今後は、児童一人一人が充分に実験をする機会を保障したり、学習したことを互いに説明し合う活動を取り入れたりすることを通して、学習内容が児童に定着するようにする。

第6学年

6年理科の基礎では、目標値61.8に対して、本校は62.5と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値45.5に対して、本校は46.4と、相対的に良好であることが分かる。領域別に見ると、「生命・地球」や「物質・エネルギー」が目標値を超える良い結果だった。問題の内容別に見ると、「物のとけ方」や「天気の変化」が目標値を超える良い結果だったのに対し、「魚のたんじょう」や「ふりこのきまり」が目標値を下回る結果となった。今後は、魚を育て観察する中で、魚が産んだ卵の中の様子に着目して、それらと時間の経過とを関係づけて、卵の中の変化を継続して観察して調べる活動で分かったことを伝える活動に力を入れる。また、振り子の実験でも、変える条件と変えない条件を制御しながら実験を行い、実験結果から考察できることを伝える活動に力を入れる。

英語に関する本校の傾向と対策



全体

6年英語の基礎では、目標値79.7に対して、本校は88.2と、相対的に良好であることが分かる。活用では、目標値72.5に対して、本校は78.4と、相対的に良好であることが分かる。領域別・問題の内容別、全てにおいて目標値以上となった。今後は、授業の中で身につけた単語や表現を用いて基礎・基本的な文章を書く機会を設けることを通して英文を書く力を身につけさせたい。